

第十六章 聖霊なる神・新生

キリスト者の信仰生活は新たに生まれることによって始まるのであるから、新生は救いに関連した基本的な教理の一つである。御霊のこの働きの正確な定義と、キリスト者の生活全体との関係の理解は、霊的な成長と効果的な伝道にとって極めて重要である。

I 新生の定義

新生（パリンゲネシア）という語は、マタイ 19:28 とテトス 3:5 にしか出て来ない。そして、マタイの方は「世が改まって」ということで、キリスト者の救いを指すものではない。テトスでは、新しい命、新しい誕生、霊的復活、新しい創造といった概念を示すものとして、また一般的に、信者が神の子どもとして受ける新しい超自然のいのちを指す用語として、神学者たちによって使われてきた。すなわち、キリストを信じた時にもたらされる、霊的な死の状態から、霊的ないのちの状態への瞬間的变化なのである。

II 聖霊による新生

新生は神のみわざである。（ヨハネ 1:13）ある箇所では、霊的な復活（ヨハネ 5:21、ローマ 6:13、エペソ 2:5）、新しい創造（Ⅱコリ 5:17、エペソ 2:10、4:24）にもなぞられている。

新生のみわざには三位一体の神のすべての位格がかかわっておられる（ヤコブ 1:17、18、ヨハネ 5:21、ヨハネ 3:5 など）。しかし、聖霊は特に新生をもたらす原動力であるように思われる。（テトス 3:5 参照）

III 新生による永遠のいのちの付与

新生の中心概念は、それまで霊的に死んでいた信者が今や永遠のいのちを受けたということである。このことを描くのに、先にも述べた「新しい誕生」「霊的復活」「新しい創造」という比喩が用いられている。これらすべてがキリストを信じる信仰によって受ける新しいいのちについて語っているのである。

新しい誕生、霊的復活、新しい創造の行為の性格から、新生が人間の何らかの善行によって達成されるものではないことは明らかである。新生それ自体は人間の意志からでた行為ではなく、バプテスマなどの教会の礼典によるのでもなく、それは人間の信仰にこたえて、神がなしてくださる超自然的な行為である。

IV 新生の結果

多くの面で新生は、われわれの救い全体がその上に築かれる土台である。まず、御霊によって新しく生まれなければ、それに続く救いの諸相を経験することはできない。

新生の事実のうちに直ちに明らかに表れてくるいくつかの特徴がある。まず、新しい性質を与えられる。その性質は墮罪以前のアダムの性質（人間的な性質）ではなく、神の性質にかたどられたものである。それは、神的な特質があって、神に関する事柄を心から慕うのである。聖霊の助けにより、人生に新しい方向を示し、神のみこころを成し遂げようとする新しい熱望を与えてくれるのである。次に、新しい体験をする能力が与えられる。

かつては盲目であり、死んでいたものが、今は見え、生かされている。神から離れていたものが、神との交わりの基盤をもち、聖霊の働きかけを受けることができる。神がキリスト者のゆだねられた人生をどれほどまで用いられるかの、すばらしい超自然的な実例となるのである。さらにもう一つの重要な局面は、救いの永遠の确实性の根拠となるということである。人間の誕生が逆転できない事実であるように、霊的な誕生も逆転できないのである。復活もまた逆転できない。われわれは神の行為によって、新しい秩序の存在へとよみがえらされたからである。創造の行為としての新生も、それが一度達成されたら永久に続くことの証拠である。創造されたものは、創造されないものとすることはできない。したがって、救いの永遠の确实性の教理は、救いが神のみわざか、人間のわざか。恵みに基づくものか、人間の功績に基づくものかという問題にかかっているのである。

キリストを信じたばかりの者は、まだ神の子としてのあるべき姿に程遠いかもしれない。しかし、その人が永遠のいのちを受けたという事実はいささかも揺るがない。その永遠のいのちは、われわれの霊的経験の中で部分的にしか表されていないかもしれないが、それらは天において、神のみ前で、究極の開花を見るのである。